

令和2年10月行事案内

【沼津バス旅行ガイド】

春のバス旅行はところ会とPCクラブ合同で、三嶋・沼津に行きましょう

記

□日時：令和2年10月8日（木）

□集合場所・時間：西武池袋線武蔵藤沢駅西口、8:15 集合

□ルート及び見学場所

武蔵藤沢駅⇒入間 IC・圏央道・東名高速・沼津 IC⇒三嶋大社⇒柿田川湧水公園⇒沼津飲食街（昼食及び散策：沼津港大型展望水門びゅうお・沼津湊公園又は沼津港深海水族館）⇒若山牧水記念館⇒沼津御用邸記念公園、沼津市歴史民俗資料館（散策）⇒沼津 IC・東名高速・圏央道・入間 IC⇒武蔵藤沢（解散）

□昼食場所：

□：沼津飲食街で、和食

沼津港魚河岸割烹 さかなや千本一

〒410-0845 静岡県沼津市千本港町 101 千本一ビル 3F

電話：055-952-0025

メニュー：沼津丼コース（生物が駄目な人は別メニューのあら煮となります。）

□参加費用：6,000 円

（沼津港深海水族館の入館料は含みません）

■見学場所簡単ガイド

<三嶋大社>

三嶋大社（みしまたいしゃ、三島大社）は、静岡県三島市大宮町にある神社。式内社（名神大社）、伊豆国一宮、伊豆国総社。

境内入り口の大鳥居前を東西に旧東海道、南に旧下田街道が走る。周辺は伊豆国の中心部として国府のあった地で、のちに三嶋大社の鳥居前町として発達、いつしか地名も大社に由来して「三島」と称されるようになったとされる。



社名の「三嶋」とは伊豆大島・三宅島等から成る伊豆諸島を指すと言われ、主祭神は伊豆諸島の開拓神である。中世に入ると、伊豆国の一宮として源頼朝始め多くの武家からの崇敬を集めた。近世以降は三島が東海道の宿場町として発達したことに伴い、東海道を往来する庶民からも篤く信仰された神社である。

境内では本殿・幣殿・拝殿が国の重要文化財に、キンモクセイが国の天然記念物に指定されている。また社宝では、北条政子の奉納と伝わる国宝の「梅蒔絵手箱」を始めとして、多数の所蔵品が国の重要文化財や静岡県指定文化財に指定されている。

<柿田川湧水公園>

昭和61年4月、「自然の保護・保全」「コミュニティー広場の確保」を目的に町民の憩いの場として柿田川の上流部に開園しました。

園内の第1・第2展望台からは、年中変わることなく水が湧き出る「わき間」を見ることができ、湧水広場では実際に水に

足を入れて湧き水の冷たさを体験できます。

また、国指定天然記念物の柿田川を眺めながら散策できる遊歩道が整備されています。



<沼津港飲食店街>

沼津港で水揚げさればかりの新鮮な魚介類が楽しめる飲食店街。沼津名産の干物などのお土産も豊富で、多くの観光客でにぎわっています。平成21年4月には約13店舗が入った大型マーケットモール「沼津みなと新鮮館」もオープンしました。また、平成23年12月に「深海水族館シーラカンスミュージアム」がオープンし、ますます沼津港が活気付いています。



＜沼津港深海水族館＞・・希望者のみ(入館料金・・1600 円)

ワシントン条約で保護された生きた化石とも言われるシーラカンスを5体展示している世界でも希少な水族館です。また、最深 2500m と日本一深い湾である駿河湾に住んでいる生物を始め、世界中からユニークな深海生物を集めて紹介しています。光の届かない深海にはどんな生物がいるのか、実はほとんどわかっていません。きっと想像もつかないような生物が泳いでいるのだと思います。沼津港深海水族館では、そんな深海の魅力にワクワクしていただけるよう、工夫して展示しています。



＜沼津港大型展望水門びゅうお＞

静岡県が津波対策として建設した日本最大級の水門。地上 30mの高さを活かした展望施設を有し、駿河湾、千本松原、そして雄大な富士山を 360 度の大パノラマで見ることができます。夜間はライトアップされ、夜 9 時まで開館しています。



＜沼津港口公園＞

大型展望水門「びゅうお」の北側にある公園です。公園から間近でライトアップされた「びゅうお」を眺めるのもお勧めです。「沼津港」や「びゅうお」に立ち寄った際の休憩スポットとしても利用できます。駐車場が整備されているため、土日になると多くの来園者でにぎわっています。

□：公園内には勝田香月記念碑があり、歌碑は縦 1.8m、横 2.7m、厚さ 50cm の御影石。中央に作詞者勝田香月の自筆で「出船」の歌詞を刻んだ黒御影石がはめ込まれています。



<若山牧水記念館>

詩情溢れる短歌で知られる若山牧水は、明治 18 年に宮崎県で生まれ、大正 9 年に沼津へ移り住み、晩年の 8 年間を沼津で過ごしました。千本の地をこよなく愛した牧水の歌には、沼津周辺の風物を詠んだものが多く見られます。また、静岡県による千本松原の一部伐採計画が持ち上がった時には、新聞に反対意見の寄稿を行い、計画は中止されました。



昭和 62 年にオープンした若山牧水記念館では、沼津在住期を中心に、牧水の足跡を原稿や書簡など縁の品々とともに展示しています。

- 牧水は所沢ゆかりの歌人で富岡の八雲神社に歌碑があり、牧水自身の筆跡で刻まれています。

のむ湯にも焚火の煙匂ひたる 山家の冬のゆふげなりけり
牧水自身は宮崎県の生まれですが、牧水の祖父・健海は所沢の出身です。牧水は、早稲田大学在学中の明治 37 年に祖父・健海の生家である若山家を訪れています。随筆「おもひでの記」には、若山家で祖父の従弟にあたる人物に会ったこと、その後もたびたび若山家を訪問し歓迎されたことなどが記されています。

<沼津御用邸記念公園>

旧御用邸にある公園。明治 26 年（1893 年）に大正天皇（1912～1926）が皇太子時代に静養のため造営した別邸、沼津御用邸。明治、大正、昭和の三代にわたり使用された。気温が温暖な駿河湾の最奥部にあたる沼津。前面に「駿河湾」背後には「富士山」という風光明媚な土地に、この御用邸があります。昭和 44 年に廃止され、45 年から記念公園として公開されており、明治時代を知ることのできる貴重な歴史ミュージアムとして邸内をご覧ください。



<沼津市歴史民俗資料館>

御用邸記念公園内にある、沼津の郷土資料を集めた博物館。網漁具や干物作りの道具、ナンバなど、古くから使われていた農漁業用具が展示されている。収集している「沼津内浦・静浦及び周辺地域の漁撈用具」が平成 22 年、国の重要有形民族文化財に指定された。

